

「第 8 回 日本 OSS 貢献者賞、 日本 OSS 奨励賞」

募集要領

2013 年 1 月
日本 OSS 推進フォーラム

1 概要

日本 OSS 推進フォーラム（代表幹事 栗島 聡：株式会社 NTT データ 代表取締役常務）では、OSS という新しいソフトウェアパラダイムを活用することによって「独占の弊害の排除と選択肢の拡大」、「技術革新の促進」、「人材育成」を実現し、日本の競争力の強化を図っています。グローバル社会の進展のなかで、国際的なコミュニケーション能力や提案能力を持ち、コミュニティでの開発能力を持つ人材の重要性がこれまでになく高まっています。そして、コミュニティ型の共同開発が多く行われている OSS へ参加、活用できる人材の育成は、グローバルなオープンイノベーションを主導しあるいは取り込んでいくために、重要性をいっそう増しています。

今般、「第 8 回 日本 OSS 貢献者賞、日本 OSS 奨励賞」を実施することになりました。

「日本 OSS 貢献者賞」は、2005 年度に日本 OSS 推進フォーラムと独立行政法人 情報処理推進機構によって、日本における OSS 開発の振興を図ることを目的に、影響力のある開発プロジェクトを創造、運営した開発者やグローバルプロジェクトにおいて活躍する卓越した開発者及び普及に貢献した方を表彰するものとして創設されました。

「日本 OSS 貢献者賞」は、2005 年度からこれまで 7 回の表彰を行い、28 名の卓越した開発者および普及に貢献された方々に本賞を授与してまいりました。この 7 年の間に、OSS は企業システム、政府・自治体のシステムに浸透してきました。また、組み込み分野においても確固たる地位を確保しています。受賞者を含め、日本からグローバルへあるいは、グローバルから日本へ新技術を提案するといった事例が多くなってきております。

「日本 OSS 奨励賞」は、OSS の普及、浸透に伴って、若手の参画や、プロジェクト、コミュニティの拡大が進んでいる中、影響力のある開発プロジェクトや普及活動に着目するだけではなく、新たな広がりの中で活躍する開発者や、普及活動に努力している若手やグループに光をあて、さらなる活躍を推奨することが、これからの OSS 開発者や OSS コミュニティで活躍する人材育成に有効であるとの考えで 2009 年度に新たに創設されました。

「日本 OSS 奨励賞」は、概ね直近の 1 年間において優れた成果を出した個人またはグループの方々を表彰することで更なる活躍を奨励するものです。前回は、2011 年度は個人 5 名、3 団体が賞を授与されました

本募集要領により、第 8 回 日本 OSS 貢献者賞、日本 OSS 奨励賞の表彰対象の候補となる方を募集いたします。

主催 : 日本 OSS 推進フォーラム
共催（予定） : 経済産業省、独立行政法人 情報処理推進機構（IPA）、
 The Linux Foundation

2 賞の概要

2.1 各賞の対象者、対象分野

2.1.1 日本 OSS 貢献者賞

以下の OSS 開発分野、OSS 普及促進分野において特に優れた業績を出された個人

A. OSS 開発分野

世界・日本における OSS プロジェクトにおいて影響力のある開発プロジェクトを創造、運営したり、卓越した開発者として活躍するなど中心的な役割を果たしている方を対象とします。開発基盤や OS・ミドルウェア、アプリケーション、デスクトップ、サーバ、組み込み分野など幅広い分野の中で活躍する OSS 開発者が対象です。

B. OSS 普及促進分野

OSS の発展・普及に大きく貢献した方、OSS コミュニティやマーケットに大きな影響を与えた方を対象とします。コミュニティの形成、OSS の認知、ドキュメンテーション、人材育成、標準化などに大きく貢献された方が対象です。

2.1.2 日本 OSS 奨励賞

OSS の開発、普及において、概ね最近の 1 年間に特に優れた成果を出した、あるいは活動した個人ないしはグループ

※ 但し、両分野ともに、現在も日本で活動を継続している方を対象とします。

3 賞の概要

3.1 募集期間

2013 年 2 月 11 日（月）まで受け付けいたします。

3.2 候補者の推薦方法

自薦、他薦を問わずどなたでも応募できます。

4 審査概要

4.1 審査方法

審査は、産・学におけるメンバーで構成された審査委員会（*2）が行います。

4.2 審査基準

4.2.1 日本 OSS 貢献者賞

候補者が OSS の発展に寄与したことを審査するために、次の 4 つの審査項目を重視します。

① 参画する OSS プロジェクトの規模・普及度

世界あるいは日本において多数の開発者・利用者が存在すること。
ディストリビューションに標準的に採用されていたり、開発コミュニティが活発であること。

② 参画する OSS プロジェクトにおける候補者の役割と責任の大きさ

参画する OSS プロジェクトを主導したり、重要な役割を担っていること。

③ 候補者個人の OSS 普及に対する貢献度

普及活動とは OSS 普及団体や標準化団体等における活動を指し、その普及活動を主導したり、大きく貢献していること。

④ 候補者個人の OSS コミュニティに対する貢献度

参画する OSS プロジェクトの活動を超え、日本あるいは世界の OSS コミュニティに対して貢献を行っていること。

また、以下の項目は審査においてプラス要素として考慮します。

●新規性

新しい情報技術を取り入れた OSS であること、あるいは OSS 分野において初めて実用化あるいは普及した OSS であること。

●市場への波及効果

参画するプロジェクト・活動が、OSS ビジネス市場において広く利用され、ビジネス上の重要な要素となっていること。

4.2.2 日本 OSS 奨励賞

OSS に関する活動を行う個人やグループが、以下の何れか、あるいはその複数において卓越した成果をこの一年間挙げているかを重視して審査を行います。

① 活動の範囲と期間における活発度

OSS に関するプロジェクト等において、開発活動ないしは普及に寄与する活動に従事しており、この一年間の活動が活発であり成果をあげたこと。

② 開発した OSS プロダクトの有用度、ないしは普及貢献の有用度

活動する OSS プロジェクトの成果となるソフトウェアの有用度に卓越した点が認められる、ないしは OSS 普及に寄与する活動において、利用者ないしは開発者にとって有用であったこと。

③ 活動の模範性、将来性

開発ないしは普及に寄与する活動が、他の OSS 開発者や OSS 利用者からみて模範となっていること。また、他の OSS 開発者や OSS 利用者からみて活動の発展に対する期待を抱かせるなどにより、将来性が高いこと。

④ 知名度、若手育成度

グループの知名度が高く、OSS 普及や OSS 開発の発展へ寄与していること。また、若手を積極的に巻き込んで、OSS 開発や普及に関わる人材育成に有益なグループ活動となっていること。

4.3 スケジュール

- 2月11日(月) 推薦の締切
- 2月18日頃 受賞者への結果通知
- 2月22日(金) 表彰式(オープンソースカンファレンス 2013 Tokyo/Spring)

4.4 審査に必要な資料請求等

審査の過程において、確認、連絡すべき事項が発生した際には、事務局より推薦者にご協力いただくことがありますのでご了承ください。

4.5 推薦における注意

グループの推薦をいただいた場合は、日本 OSS 奨励賞の候補となります。個人の推薦をいただいた場合は、日本 OSS 貢献者賞および日本 OSS 奨励賞の候補となります。

5 公表・表彰等

5.1 表彰等

審査の結果選ばれた受賞者については、2013年2月22日(金)にオープンソースカンファレンス 2013 Tokyo/Spring の会場(明星大学)にて表彰式を行います。

日本 OSS 貢献者賞受賞者には盾の授与を行います。日本 OSS 奨励賞受賞者には賞状の授与を行います。団体・グループの場合は、代表者に対して賞状の授与をおこないます。また、OSS 貢献者賞の受賞者には、受賞された活動に関わる講演をいただきます。

6 推薦書記載内容

6.1 記載事項

【受賞候補者についての項目】(日本 OSS 貢献者賞 候補者)

- 1 候補者
- 2 メールアドレス
- 3 対象分野
- 4 プロジェクトや活動の概要※
- 5 プロジェクトや活動の URL※
- 6 推薦理由※

【受賞候補者についての項目】(日本 OSS 奨励賞 候補者)

- 1 候補者 ないしは代表者氏名※
- 2 グループ名称
- 3 候補者 ないしは代表者メールアドレス
- 4 対象分野
- 5 プロジェクトや活動の概要※
- 6 プロジェクトや活動の URL※
- 7 推薦理由※

【推薦者についての項目】

- 1 推薦者氏名※

- 2 推薦者メールアドレス※
- 3 推薦者電話番号
- 4 推薦者所属団体名
- 5 連絡事項

※は必須項目です。

6.2 応募方法

日本 OSS 推進フォーラムの以下の特設ページから、応募してください。

1. 日本 OSS 推進フォーラムのサイトにアクセスしてください。
URL : <http://ossforum.jp/>
2. ホームの「OSS 貢献者賞応募特設ページへのリンク」をクリックして、推薦する部門を選択しますと、推薦書フォームが表示されます。
3. 推薦書画面が表示されましたら、上記の記載事項を順次入力してください。
4. 記載事項を入力後、推薦書画面の最後の「入力確認」ボタンをクリックし、入力内容の確認を行ってください。
5. 内容に変更がなければ、「送信」ボタンをクリックして終了です。
送信したデータは後から確認することが出来ませんので、入力確認を行ってから送信してください。

(注意)

応募情報の取り扱いに関しては、日本 OSS 推進フォーラムの「プライバシーポリシー」に基づき、適切な管理を行います。

※他薦の場合は本人の同意を得てください。ただし本人に直接同意が得られない場合は、公開されている範囲の情報を推薦書に記入して応募してください。詳しくは、「6. 推薦書記載内容」を参照してください。

■本件に関するお問い合わせ先

日本 OSS 推進フォーラム 日本 OSS 貢献者賞実行委員会

E-mail: ossaward@todo.ne.jp

* 1 日本 OSS 推進フォーラムについて

国内情報システムのベンダ、ユーザ、学識関係者などが参加し、OSS 活用上の課題について、自由な立場から議論を重ねながら、課題解決に向けて取り組んでいます。活動は課題ごとに部会を設置して実施しています。

日本 OSS 推進フォーラム → <http://www.ossforum.jp/>

* 2 審査委員会

産業界・学界のメンバーによる審査委員会（委員長：笈 捷彦、早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部/研究科 情報理工学専攻 教授）を構成します。

*3 これまで受賞者

過去 6 回の受賞者は、次の通りです。

■ 「2005 年度日本 OSS 貢献者賞」の受賞者（4 名、五十音順）

- 鵜飼 文敏：Debian Project の主要メンバー
- 高橋 浩和：Linux Kernel 開発への参画
- 高林 哲：Namazu, quickml, gonzui の開発/プロジェクト運営
- まつもと ゆきひろ：Ruby の開発/プロジェクト運営

■ 「2006 年度日本 OSS 貢献者賞」の受賞者（4 名、五十音順）

- 比嘉 康雄：Seasar の開発
- 平林 俊一：WideStudio/MWT の開発プロジェクト
- 山本 博之：Sylpheed の開発
- 吉藤 英明：IPv6 プロトコルスタック「USAGI」の開発

■ 「2007 年度日本 OSS 貢献者賞」の受賞者（4 名、五十音順）

- 小山 哲志：日本 PHP ユーザ会における技術者育成をはじめとした OSS 普及促進への貢献
- 笹田 耕一：Ruby を高速化するシステム YARV (Yet Another Ruby VM) の開発をはじめとした OSS への貢献
- 佐藤 嘉則：組込み向け CPU への Linux の移植をはじめとした OSS への貢献
- 松本 裕治：日本語形態素解析システム「茶釜 (ChaSen)」の開発をはじめとした OSS への貢献

■ 「2008 年度日本 OSS 貢献者賞」の受賞者（4 名、五十音順）

- 石井 達夫：PostgreSQL の開発、発展、普及に大きく貢献
- 奥地 秀則：ブートローダ GRUB の主要開発者で、GRUB2 では中心となって、設計・開発に携わる
- 中野 雅之：Firefox の開発に関わり、日本語入力システムとの連携機能等の実装に貢献
- 宮原 徹：「オープンソースカンファレンス」を立ち上げ、中心的な立場で活動をリード

■ 「2009 年度日本 OSS 貢献者賞・日本 OSS 奨励賞」

日本 OSS 貢献者賞 受賞者 (4 名、五十音順)

- 小崎 資広：日本の Linux カーネル開発量の拡大へ貢献
- 瀧田 佐登子：Firefox をはじめとする Mozilla 製品普及における中心的活動に貢献
- フェルナンド ルイス バスケス カオ：Linux カーネル開発について、特に「カーネルクラッシュ ダンプ」と「ディスク I/O 制御/仮想化」に貢献
- 本田 茂広：PostgreSQL を中心に日本語ドキュメント整備に貢献

日本 OSS 奨励賞 受賞者

個人 (6 名、五十音順)、

- 新井 紀子：OSS の教育用ポータル向け CMS 「NetCommons12」を開発、公開
- 安藤 祐介：Web アプリケーション開発フレームワーク CakePHP14 について、勉強会での講演や関連書籍の執筆を精力的に行い同コミュニティの日本での発展に大きく寄与した
- 新藤 愛大：BeInteractive! というサイトで Flash に関する技術情報を発信
- 高木 正弘：PHP₁₇ のマニュアルの日本語翻訳で精力的に活動を続けている
- 寺島 広大：運用監視ソフトウェア ZABBIX₁₈ の日本コミュニティである ZABBIX-JP の代表を努めている
- 林 拓人(はやし たくと)氏：Cyan や Yellow 言語を公開、コミュニティのフィードバックを得るようになった

団体 (2 団体、五十音順)

- 山形県立寒河江 工業高等学校・情報技術科：オープンな環境の体験や、情報活用の本質を理解させることで、生徒・教員全体のリテラシー向上をめざしている。
- LOCAL (ローカル)：北海道におけるユーザー会、勉強会などの技術系地域コミュニティの活動を支援

■ 「2010 年度日本 OSS 貢献者賞・日本 OSS 奨励賞」

日本 OSS 貢献者賞 受賞者 (4 名、五十音順)

- 酒徳 峰章：「クジラ飛行機」の名義で OSS を開発・発表しており、開発した日本語プログラミング言語「なでしこ」では、定型処理を手軽に実用的に行える。
- 須崎 有康：KNOPPIX 日本語版の開発と継続したリリースを通じて、仮想化などの最先端の研究成果の反映され、初心者への OSS 普及にも貢献した。
- 曾田 哲之：NetBSD の開発に長期間携わり、カーネルを中心に多方面で活躍され、多くの技術者に”ご意見番“として親しまれている。
- 武藤 健志：Debian Project 公式開発者であり、多数の著作・監修書がある。印刷システム、国際化などで多大に活躍されている。

日本 OSS 奨励賞 受賞者

個人 (6 名、五十音順)

- 池田 百合子：人気の OSS ブログソフト WordPress で携帯ブログを実現する「Ktai Style」を開発、開発者・ユーザのコミュニケーション向上につとめている。
- 岩松 信洋：Debian プロジェクトで、とくに組み込み向け CPU の SH アーキテクチャ移植、ブートローダで大きな貢献をされた。
- 角藤 亮：大学・学会の論文等で人気の組版エンジン TeX の日本語対応環境を開発、構築、配布するほか、周辺対応、利用者のサポートも推進された。
- 塚田 朗弘：学校内のコミュニティ活動を立ち上げ、社会人技術者との連携、学生向け勉強会主宰など、OSS を通じた知の共有拡大に貢献した。

- 藤井 雅雄：企業システムに必要な可用性・信頼性、性能の向上に寄与するリプリケーション機能を開発コミュニティ協調により実現、PostgreSQL 9. x の主要機能としてリリースされた。
- 古橋 貞之：分散 Key-Value ストアである kumofs を開発した。

団体（2 団体、五十音順）

- OSGeo 財団日本支部：OSS による地理空間ソフトウェア（FOSS4G）の普及に貢献し、OSS の GIS 分野への普及に貢献した。
- しまね OSS 協議会：島根県内の OSS 関係企業、技術者、研究者、ユーザの交流によって、技術力と OSS 認知度の向上に多大に貢献した。

■ 「第 7 回 日本 OSS 貢献者賞・日本 OSS 奨励賞」

日本 OSS 貢献者賞 受賞者（4 名、五十音順）

- 川口 耕介：Jenkins の開発や普及啓蒙活動
- 平松 雅巳：Linux 障害解析機構・トレーサや性能プロファイラの開発をリード
- 法林 浩之：OSS 関連イベントの開発を継続
- 森 啓介：HA クラスタソフト Heartbeat/Pacemaker の開発貢献

日本 OSS 奨励賞 受賞者

個人（5 名、五十音順）

- 井上 敬浩：MongoDB などにフォーカスした勉強会を企画・運営
- 木下 靖文：MySQL のストレージエンジン InnoDB の性能改善
- 福森 匠大：Ruby コミッター、Shinsai.info 情報収集機能の開発（中学生）
- 矢倉 大夢：Linux カーネルへの開発貢献（中学生）
- 山本 裕介：Twitter4J の開発、Twitter API に関する勉強会の開催

団体（3 団体、五十音順）

- 下北沢オープンソース Café：OSS に着眼したコワーキングスペースの提供
- Sinsai.info 開発者、情報ボランティア同：OSS による復興支援プラットフォーム提供と情報発信
- 日本 Ruby の会：「日本 Ruby 会議」の支柱として会議を支える